

長周期地震動に関する普及啓発の取組について

H29年度における普及啓発の取組の考え方

H28年度報告書より

長周期地震動の特徴や長周期地震動階級の認知度の向上
家具類の転倒・落下・移動防止対策等、事前対策の推進

(H29.3「長周期地震動に関する情報検討会平成28年度報告書」)

さらなる認知度の向上を目指す
(特に東京・大阪・名古屋の3都市)



取組内容

長周期地震動説明ビデオの活用
他機関との連携による普及啓発
各種防災啓発イベント等を通じた住民等への理解の促進
気象庁ホームページのコンテンツやリーフレット等の活用
短周期と長周期地震動との違いや危険性が分かるプレゼン資料
や実験装置等を活用した普及啓発。
公共機関等の広報誌への記事掲載の働きかけ

普及啓発実施状況（H29年度）

長周期地震動に適切な対応が取れるための、現象の理解と備えに関する普及啓発活動を実施

認知度の現状

長周期地震動(言葉、現象) : 50%程度で推移

「長周期地震動階級」の認知度
全体の30%程度

東京消防庁など他機関と連携した

強力な普及啓発活動

配布資料「参考2」参照

普及啓発活動の具体例（H29年度）

他機関・団体との連携

- ・ 東京消防庁（ポスター、普及啓発）
- ・ 日本赤十字社等（イベント共催）
- ・ 名古屋大学、工学院大学（講演会） など

イベント・講演会

- ・ 東京、名古屋、大阪でのイベント・講演会主催
- ・ 東京消防庁「室内安全セミナー」
- ・ 新宿区防災WEEK
- ・ 文部科学省「ぎゅっとぼうさい博2018」
- ・ あいちなごや耐震化連続シンポジウム など

インターネット、SNS、その他

- ・ 気象庁HP（トップページ）
- ・ 気象庁公式ツイッター
- ・ 首相官邸メルマガ、LINE
- ・ 政府広報（YOMIURI ONLINE）
- ・ ニュース報道 など

雑誌等への寄稿

- ・ 建築技術 12月号
- ・ 月間消防 1月号
- ・ 地震本部ニュース 2018年春号 など



体験型防災啓発イベント「大地震へのソナエ」

開催日：平成30年2月2日(金)～3日(土)

会場：東京臨海広域防災公園そなエリア東京

主催・共催：気象庁 日本赤十字社 東京臨海広域防災公園「そなエリア東京」 内閣府



左上：長周期地震動体験者を変えた
トークイベント

右上：ミニ震動台を用いた実験
【気象庁ブース】

左下：地震ザブトン【深川消防署】

その他、有識者による講演や協力団体
によるブース出展、啓発ビデオの上映等

各種講演会での講演

様々な講演会に気象庁職員が講師として、あるいは気象庁・気象台が主催した講演会に有識者を招いて、長周期地震動の知識、長周期地震動階級の概要について講演

有識者による講演



気象庁職員による講演（一部）

- 9/6 東京消防庁「地震から身を守る室内安全セミナー」
- 10/4 建築研究コンソーシアム
- 11/6 新宿区防災weekセミナー
- 12/1 大阪市消防局高度専門教育訓練センター（大阪管区気象台）
- 1/18 あいちなごや耐震化連続シンポジウム（名古屋地方気象台）
- 2/8 震災対策技術展

各種ツールによる周知広報

ポスターや政府広報等を通じての各種SNSやWeb上のバナー広告による周知広報の実施

政府広報による
インターネット
テキスト広告



おすすめ情報 PR

高いビルを10分以上揺らすことも！長周期地震動とは？～政府広報

東京消防庁との
連携による
啓発ポスター



実証実験の報道
発表を受けての
ニュース報道



高いビルを10分以上揺らすことも！長周期地震動とは？～政府広報

AIと雇用
寄稿：守島 基博（学習院大学 経済学部経営学科 教授）

代ゼミ新学期 | 受付中
自分にぴったりのカリキュラムと親身の指導、実力派講師陣の講義で合格へ

伝統芸能とICT？
お子様向け（ロボット教室）開講
kids.atihuman.com
子どもたちに身体や科学の感動と驚きを。体験授業&入会受付中。ヒューマンキッズ

震源から数百 km 離れた場所でも高いビルでは 10 分以上揺れる場合もあります。

長周期地震動 知ってる？

長周期地震動とは何？
特徴① 高いビルの下層階に比べ、高層階の方で大きく長く揺らします。
特徴② 遠くまで伝わりやすい性質があります。

高いビルでの長周期地震動による揺れの大きさは、震度では分かりません。そのため、「長周期地震動増級」という目安が表示します。

1. 室内で大きな揺れを感じる。壁につかまりたいと感じる。壁につかまらないうまく立ち回れない。
2. 室内で大きな揺れを感じる。壁につかまりたいと感じる。壁につかまらないうまく立ち回れない。
3. 立っていることが困難になる。
4. 立っていることができず、壁や家具にぶつかってしまう。

室内はどうなるの？
特徴① 高層階ほど、家具類の転倒等が多く発生する傾向があります。
特徴② キャスター付きの家具類は大きく移動します。

家具類の転倒・落下・移動防止対策
東京消防庁「家具類の転倒・落下・移動防止対策（ハンドブック）」より

気象庁 Japan Meteorological Agency
東京消防庁 Tokyo Fire Department

5:31 前橋

NHK「おはよう日本」
(2017年11月22日放送)より

長周期地震動予測情報 試験提供で反応調査